様式Ｃ-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年６月８日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2009
課題番号：19300295
研究課題名（和文）　日本の近代化と健康転換

研究課題名（英文）　Modernization and Health Transition of Japan

研究代表者
鈴木　晃仁（SUZUKI AKIHITO）
慶応義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：80296730

研究成果の概要（和文）：19 世紀後半から 20 世紀前半にかけての日本における「健康転換」を、当時の先進国と日本の植民地を含めた広域の文脈で検討した。制度・行政的な側面と、社会的な側面の双方を分析し、日本の健康転換が、前近代社会としては疾病構造の点では比較的恵まれている状況で、市場が優越し公共の医療が未発達である状況において、欧米の制度を調整しながら受容したものであったことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research project has examined the health transition in Japan during late nineteenth- and early twentieth century. It has included the analysis of health-related themes in Japanese colonies and European countries. The project's analyses of the institutional and administrative aspects on the one hand and the social aspects on the other have revealed the adjustment of health policies imported from the West to the Japanese society, where relatively favourable epidemiological situation existed and the market was strong and the public provision was weak in the distribution of health-related resources.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2008 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2009 年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
年度			
年度			
総　計	15,200,000	4,560,000	19,760,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史
キーワード：　医学史

１．研究開始当初の背景

近代日本の医学史研究の多くは、日本国内の医者の科学的な業績の研究に集中し、行政・社会的側面を検討したものは、散発的で孤立したものが多かった。川上武らの業績は優れたものであるが、あるべき近代化された医療福祉の像を設定し、そこからの逸脱として日本の医療を捉えるという限定的な視点で歴史を捉えていた。

一方で、個々の研究者たちは、歴史や医療のさまざまなディシプリンから、医療の問題をトータルに考えるための業績を発表していた。このような状況から出発して、個々の研究者のネットワーク化をはかり、洗練された総合的な方法で日本の医療の近代化の諸側面を「健康転換」から検討しようとしたのが本研究である。

２．研究の目的

医学教育・研究については、日本は医学教育の完全な欧米化を真っ先になしとげた非欧米の国家であることは知られている。医療行政も、明治維新以降は迅速に欧米化が計られた。それならは、医療と健康をめぐる社会的状況はどうだったのか。その変化に、医学教育と医療行政はどのように貢献したのか。それ以外に、日本の医療と健康状態に影響を与えたものは何か。このような検討を通じて、健康の総合的な歴史を作り出し、何が戦後から現代の達成と問題の双方に関係があるのかを明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

技術的には、死因・法定伝染病の統計のデータベースを共有した。研究会を定期的に開き、研究報告をウェブ上に発表して、それにコメントを与えるという形で、研究成果と議論がリアルタイムで発信できる形を採用した。（そのため、研究期間中に、研究内容について複数の問い合わせがあった。）

それぞれの共同研究者が用いる方法については、設定したテーマにより最適の方法が違うので、それぞれの研究者に任せた。行政史、社会史、医学史、経済史、疫学などのさまざまな手法から、疾病の状況、法的制度的な側面、社会的な状況などを検討し、別の視点から批判を加えるという有機的な統合を目指した。

その議論の中から、行政史・社会史がこれまで検討しなかった、社会の生物学的な側面、すなわち疾病の状況などの疫学的考察を含めて、「環境」の考察の中で、健康をめぐる行政や社会を考えなければならないという合意が形成された。

４．研究成果

成果の発表は、共同研究のウェブサイトにワーキングペーパーをアップして行く方法をとった。
http://web.hc.keio.ac.jp/~asuzuki/BDMH/HTJ/HTJAAATop.htm
内容は多岐にわたり、1）疾病構造転換の再検討、2）医者・医療者の養成、3）公衆衛生の行政、4）看護婦の普及と業務の転換、5）医療の場（病院）の増加と性格の変容、6）患者の受療行動、7）植民地の疾病と医療、の７点にわたった。
これらの点について、日本においては、近代化にともなう大都市の健康状態悪化はヨーロッパの大都市に較べて比較的低く抑えられた上に、海に囲まれていることと明治期の医療政策の導入により、アジアのほかの国々が経験した侵入感染症と常在感染症の蔓延は比較的早い段階で防がれ、慢性感染症を問題にすることが比較的早い段階で可能になった。医者・医療者については、明治を通じて、従来の漢方医学の教育を受けたものが江戸後期以降、数的に確保され、ヨーロッパ諸国と較べても遜色がない数の医療者が全国にわたって存在し、人々に受療する習慣を付けさせていた。公衆衛生の領域では、しばしばドイツ型と呼ばれる政策が、イギリスからも学びながら、日本の低支出の政府にあわせた政策だったことが明らかにされた。看護については、疾病構造の変化に応じて、かつてのコレラの隔離病院（「避病院」）が病院の中心であった時代には、看護が必要な患者の数が不安定に変化するが、赤痢などの例年ほぼさだまった数が変化する感染症に避病院の中心が変化してからは、安価ではあるが「看護婦」である労働力を求めて、それぞれの地域で看護婦の数を確保し供給する仕組みが作られたことが明らかにされた。病院と受療については、日本では私立病院が圧倒的に多く、当時の進んだ医療は病院で提供されていたため、複雑な医療は高価であったが、これは貧しいものは医療を受けられなかったということではなく、さまざまな医療の仕組み（売薬など）と組み合わせながら、高額な医療も受けられていたことが明らかにされた。

総合すると、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけての日本における「健康転換」を、当時の先進国と日本の植民地を含めた広域の文脈で検討した。制度・行政的な側面と、社会的な側面の双方を分析し、日本の健康転換が、前近代社会としては疾病構造の点では比較的恵まれている状況で、市場が優越し公共の医療が未発達である状況において、欧米の制度を調整しながら受容したものであったことを明らかにした。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１３件）

① 渡部幹夫、Yale 大学 Harvey Cushing 医学図書館 Fry Collection に収蔵されている江戸期日本の医療版画資料について、順天堂大学医療看護学部　医療看護

研究、査読有、6、2010、10－20
② 橋本明、山梨県身延の精神病者、人間発達学研究、査読有、１、2010、19－26
③ 永島剛、ソーシャル・キャピタル論と歴史研究：予備的展望、社会関係資本研究論集』（専修大学）、査読無、１、2010、31－34
④ 田中誠二、杉田聡、丸井英二、戦後占領期におけるマラリア流行の２類型（原著論文）、日本衛生学雑誌、査読有、64、2009、3-13
⑤ 橋本明、戦前の大分県における私宅監置患者の健康状態について、日本社会精神医学会雑誌、査読有、17、2009、257－266
⑥ 渡部幹夫、アジア太平洋地域の結核対策と結核医療の史的考察、 順天堂大学医療看護学部医療看護研究、査読有、5(１)、2009、1－10
⑦ 鈴木晃仁、Measles and the transformation of the Spatio-Temporal Structure of Modern Japan、Economic History Review、査読有、62、2009、828-856
⑧ 杉田聡、保健医療分野における GHQ 文書研究の概況と今日的意義、保健の科学、査読無、51、2009、436－440
⑨ 橋本明、German Psychiatrists Traveling to Japan before World War II: Their Perspectives and Identity、Bulletin of The Faculty of Education and Welfare Aichi Prefectural University、査読無、58、2009、57－60
⑩ 橋本明、People, Community, and Memories of Madness in the Amami islands, Japan、Social Welfare Studies、査読無、10、2008、37－41
⑪ 鈴木晃仁、 Illness Experiences and Therapeutic Choice: Evidence from Modern Japan Social Science History, 査読有、32(4)、2008、515-534
⑫ 橋本明、わが国の精神科領域における「患者・家族・地域の歴史」研究序論、精神医学史研究、査読有、11(2)、2007 115-126
⑬ 永島剛、大正期日本における感染症の突発的流行―発疹チフス 1914 年、三田学会雑誌、査読無、99、2007、41-60

〔学会発表〕（計１６件）
① 脇村孝平、 Toward the History of Cholera Pandemics in 19th Century Asia :Between Economic History and Environmental History, 東亜環境史研究討論会、2010 年 3 月 14 日、上海交通大学
② 永島剛、 Urban environment and water-borne infections in interwar Tokyo, 東亜環境史研究討論会、2010 年 3 月 14 日、上海交通大学
③ 鈴木晃仁、 「精神医学における臨床と社会 ― 精神医学史の可能性」第 13 回精神医学史学会・会長講演 2009 年 11 月 1 日 慶應義塾大学
④ 田中誠二、杉田聡、安藤敬子、丸井英二、戦後占領期における赤痢の流行、第 68 回日本公衆衛生学会総会、2009 年 10 月 21 日、奈良県文化会館
⑤ 橋本明、German Psychiatrists Traveling to Japan before World War II Their Perspectives and Identity, German Studies Association Thirty-Third, Annual Conference, 2009 年 10 月 11 日、Washington D.C.
⑥ 橋本明、Folk Therapy for the Mentally Ill in Modern Japan: Its Rise and Fall, JSAA-ICJLE International Conference, 2009 年 7 月 14 日、The University of New South Wales, Sydney
⑦ 橋本明、 Japanese Orientalists and psychiatry policy in modern times, 31st International Congress on Law and Mental Health, 2009 年 6 月 30 日、New York University
⑧ 田中誠二、杉田聡、安藤敬子，丸井英二 戦後占領期における感染症報告の方法 第 110 回日本医史学会学術大会、2009 年 6 月 22 日、佐倉市
⑨ 脇村孝平、 Malaria Control, Rural Health and Urban Health: “Social Determinants of Health” in a Historical Perspective, The International Conference on ‘The World Health Organization and the Social Determinants of Health: Assessing Theory, Policy and Practice, 2008 年 11 月 20 日、The Wellcome Trust Center for the History of Medicine, University of College, London
⑩ 鈴木晃仁、Cholera, Community, and Connectivity: Towards a Socio-Ecological History of Meiji Japan, Japan’s Natural Legacies, 2008 年 10 月 1 日、Montana
⑪ 山下麻衣、 Post-War Transition in the Japanese Nurse’s Fee-Charging Employment Agency, 25th Annual History of Nursing Conference, 2008 年 9 月 27 日、 University of Pennsylvania Philadelphia, Pennsylvania
⑫ 橋本明、 People, Community, and Memories of Madness in the Amami Islands, Japan, 15th International

Oral History Conference, 2008年9月25日、グアダラハラ大学

⑬ 鈴木晃仁、Cholera, Consumer and Citizenship: Regimen and Hygiene in Early Meiji Japan, Annual meeting for the American Association, for the History of Medicine, 2008年4月13日 Rochester

⑭ 鈴木晃仁、Imaging the Japanese Body in the Tropics: Physiology of Acclimatization in Japanese medicine during the Second World War, The International Symposium on the Topology of the Body,2008年2月16日、名古屋大学

⑮ 飯島渉、Parasite Studies and Japanese Colonial medicine, Medicine and Modernity Conference, 2007年8月16日、Yonsei university

⑯ 鈴木晃仁、Towards tropical history of the environment of Japan, The Asian Studies Conference in Japan, 2007年6月24日、明治学院大学

〔図書〕（計７件）

① 山下麻衣、芙蓉書房、シリーズ　情熱の日本経営史⑤　医薬を近代化した研究と戦略、2010、197

② （共著）飯島渉　Yip Ka-che編、法政大学出版局、Disease, Colonialism, and the State: Malaria in Modern East Asia History、2009、161(61～70)

③ 飯島渉、中央公論新社、感染症の中国史：公衆衛生と東アジア、2009、212

④ (共著)鈴木晃仁、 Hormoz Ebrahimnejad、Routledge、Medical Modernization in the International Perspective、2009、284(157－176)

⑤ （共著）鈴木晃仁（川越修・鈴木晃仁編著）、法政大学出版局、分別される生命－20世紀社会の医療戦略、2008、332(129～162)

⑥ 脇村孝平、東信堂、グローバルガバナンスの最前線、2008、252

⑦ （共著）山下麻衣（川越修・鈴木晃仁編著）、法政大学出版局、分別される生命－20世紀社会の医療戦略、2008、332(91～127)

〔その他〕
ホームページ等

「日本の近代化と健康転換」
http://web.hc.keio.ac.jp/~asuzuki/BDMH/HTJ/HTJAAATop.htm

６．研究組織

(1)研究代表者
鈴木　晃仁（SUZUKI AKIHITO）
慶応義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：80296730

(2)研究分担者
脇村　孝平（WAKIMURA KOHEI）
大阪市立大学・経済学研究科
研究者番号：30230931
飯島　渉（IIJIMA WATARU）
研究者番号：70241744
橋本　明(HASHIMOTO AKIRA)
愛知県立大学・文学部・教授
研究者番号：40208442
杉田　聡(SUGITA SATORU)
大分大学・医学部・教授
研究者番号：00222050

(3)連携研究者
渡部　幹夫（WATANABE MIKIO）
順天堂大学・医療看護学部・教授
研究者番号：00138281
（H19→H20　研究分担者）
山下　麻衣（YAMASHITA MAI）
京都産業大学・経営学部・準教授
研究者番号：90387794
（H19→H20　研究分担者）
猪飼　修平(IKAI SHUHEI)
一橋大学・社会学研究科・準教授
研究者番号：90343334
（H19→H20　研究分担者）
永島　剛（NAGASHIMA TAKESHI）
専修大学・経営学部・準教授
研究者番号：00407628
（H19→H20　研究分担者）